

第23回地域福祉実践研究セミナー IN 静岡・掛川

ワークショップ 2 報告

共生社会実現への全世代対象型地域包括ケアの取り組み

活動報告者	仁平 博（司法書士） 後藤柚季（掛川市社会福祉協議会） 平野都美（掛川市役所こども希望部こども希望課）
アドバイザー	國光登志子（日本地域福祉研究所） 神山 裕美（大正大学）
地域担当者	後藤柚季 松浦純子

参加者状況

1. ワークショップ会場

中部地域健康医療支援センター「ふくしあ」

2. 参加者 計50名

県外 14名（北は秋田県から、南は沖縄県まで）

県内 6名

学生 7名

掛川市 19名（民生児童委員、地区福祉協議会、ふくしあ、行政、社協等）

ワークショップ担当職員・アドバイザー 4名

展 開 方 法

時 間	内 容
9:30	開会 (15分) 本日の日程と進め方説明
9:45	中部ふくしあ屋上より希望の丘見学 (20分)
10:05	休憩 (10分)
10:15	掛川市の概要説明 (地域包括ケアの取り組みや特徴等紹介) (20分)
10:30	報告者①司法書士 (20分)、質疑応答・講評 (10分) 「(事例テーマを入れて下さい)」
11:00	報告者②CSW (15分)、質疑応答・講評 (10分) 「(事例テーマを入れて下さい)」
11:30	報告者③こども希望課 (20分)、質疑応答・講評 (10分) 「多問題を抱える家庭への支援・関係機関との連携」
12:00	昼食休憩 (60分)
13:00	アイスブレイク (自己紹介・名刺交換) (15分)
13:15	ワーク①「事例検討」説明 (10分)
13:25	ワーク①実施 (40分) 午前中の3事例について良い点、改善点、感想等話し合いワークシートに記入。
14:15	ワーク①発表・講評 (25分)
14:40	休憩 (10分)
14:50	ワーク②「専門職機関連携と地域連携で大切にしたいポイント」説明 (10分)
15:00	ワーク②実施 (30分) CSWは、分野を超えてインフォーマル (個人や家族、近隣地域と住民) とフォーマル (多組織と多職員、行政等) の人や組織をつなぐ役割が求められる。その際、CSWはどのようなことに配慮することで、より良いネットワーク形成につながるか。 事例に学びながら、グループで話し合いワークシートに記入。
15:30	ワーク②発表・講評 (60分) ワールドカフェ方式でグループ間共有 (17分×2回、3回目元グループでまとめ)
16:30	日本地域福祉研究所アドバイザーよりまとめ (30分)
17:00	閉会

目 的

地域包括ケアシステムにおける医療・介護・予防・生活支援等の専門職連携は、ソーシャルインクルージョンを実現する地域づくりや、住民主体の地域福祉活動等により、効果的に展開する。

近年は、地域共生社会実現に向けて、住民主体の課題解決と包括的な相談体制をつなげる、全世代型地域包括ケアの取り組みが求められている。

それらの実践とシステム形成に先駆的に取り組んだ、掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」の実践より、地域で暮らす対象者へのより良き専門職連携と、地域や住民活動を支援するコミュニティソーシャルワークのつながり、及びそのネットワーク形成について、参加者と共に考えていきたい。

第23回



地域福祉
実践研究セミナー

静岡

ワークショップ

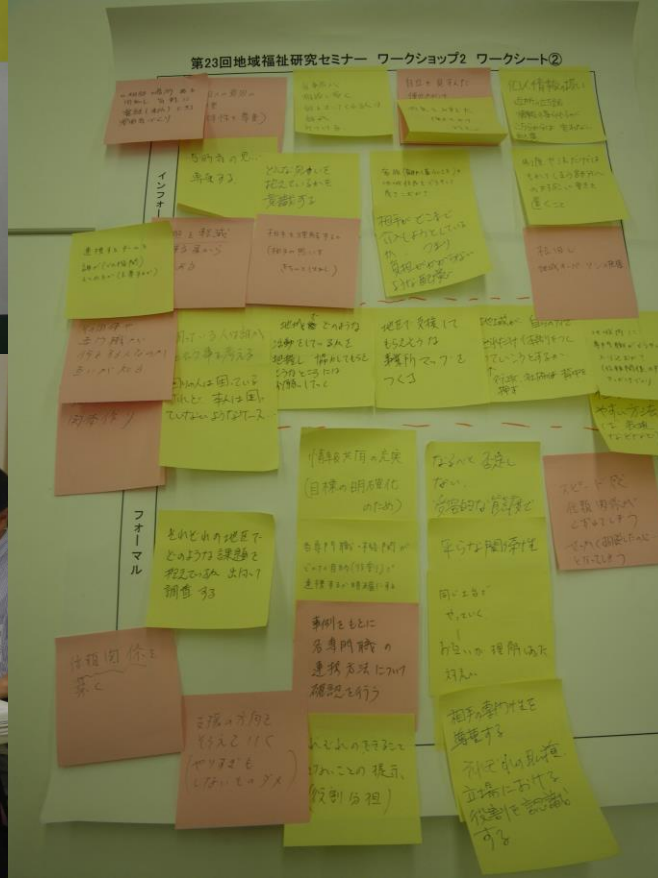
2

掛川

地域福祉
実践研究セミナー



第23回



事例報告（11:00-12:00）

自己紹介・機関の役割・活動事例・多職種連携の効果・双方が助けられたこと・今後の思い、の6点について報告後、質疑応答を行った。

1. 仁平 博（司法書士）

「うつ病の本人、統合失調症の娘の家庭での成年後見制度利用」

2. 後藤柚季（掛川市社会福祉協議会）

「地域住民の気づきからの見守りネットワーク構築への連携支援」

3. 平野都美（掛川市役所こども希望部こども希望課）

「多問題を抱える家庭への支援・関係機関との連携」

グループワーク ① 13:15-14:45

6グループにわかれ、3事例について良い点・改善点・感想を話し合い発表した

<良い点>

- * 専門職間の相互理解と尊重
- * 地域や住民とのふくしあいの信頼関係
- * 本人主体連携
- * 地域やキーパーソンをよくみている
- * 個から地域課題対応
- * 長期間の世帯丸ごと支援
- * 関係機関連携での相互支え合い
- * 親への就労力と教育力も育てる
- 等

<改善点>

- * 成年後見制度の首長申し立て
- * 高齢者以外の見守り
- * 入所以外選択肢
- 等

<感想>

- * 法律専門家がチームにいる安心感
- * 地域力の高さ
- * 地域アウトリーチでの継続説明
- * 出前式地域ケア会議よい
- * 皆で関わるのは良いがチームケアの責任所在
- * 公私連携の際の情報共有ルール
- * 雇用先や住民力の高さ
- * 地域へのふくしの発信必要
- * 掛川式を見本にしたい
- 等

グループワーク② 14:55-16:25

CSWは、分野を超えてインフォーマル（個人や家族、近隣地域と住民）とフォーマル（多組織と多職員、行政等）の人や組織をつなぐ役割が求められる。その際、CSWはどのようなことに配慮することで、より良いネットワーク形成につながるか。事例に学びながら、グループで話し合いワークシートに記入した。

<インフォーマル連携ポイント>

専門用語を使わず説明、丁寧に低姿勢で、地域特性やキーパーツを知る、受け入れる、学習機会をつくる、興味関心をもって参加してもらえるように、急がせない 等

<フォーマル連携ポイント>

情報共有を積極的に、多職種の仕事を知る、報告連絡相談、TPOをわきまえる、アセスメント用紙や記録の統一、各職種の役割と限界を共有、地域課題共有、等

<両者に共通>

対象者の問題整理、本人意向把握、顔のみえる関係、信頼関係、地域資源把握、等

考

察

1. 本人と家族中心のチームケア ～自立支援とエンパワメント～

サービス提供だけでなく、課題に向き合い、乗り越える力を育てる

2. 地域力強化 ～地域アセスメントにより主体性支援～

既存の地域力発見、地域特性やキーパーソンを見極め、継続的アウトリーチ、福祉教育

3. 多職種連携の相互理解と尊重 ～チームアプローチの推進～

互いのできることを、できないことを知り、報連相、そして支え合い

4. 家族丸ごと支援 ～家族システムの理解と介入～

家族間のつながりをみすえた、家族全体の支援

5. 「ふくし」の発信

地域力発見含めエビデンス蓄積、わかりやすく、相手にあわせて、継続的に発信

結論 ・ 今後の展望

1. 我がごと・丸ごと共生社会実現を先取りした掛川の地域包括ケアシステムからの学び
2. 掛川の実践とシステムをモデルにした今後の取り組み
3. 各地域の特色、人や文化の特色を生かした我がまち共生社会づくり